

第 19 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会要旨

観察情報の集積と利用―標本情報と観察情報の横断利用実現に向けて―
大澤剛士（農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター）

観察情報は、データの性質を見極めて利用すれば、非常に様々な研究において利用できる貴重な自然史資料である。しかし、日本国内における観察情報の流通量は、標本情報に比べて圧倒的に少ない現状にある。観察情報は生態学者、地域の自然愛好家等、様々な人々によって収集されており、そのリソースは間違いなく多量に存在している。しかし、その流通が進まないのはなぜだろうか？本公演では、まず演者がこれまで取り組んできた観察情報を利用した研究の紹介と、それを行っていく上で感じた観察情報の公開が進まない原因について、演者の考えを述べたい。それをふまえた上で、現在演者が農業環境技術研究所において取り組んでいる内容を紹介し、観察情報の集積と公開、さらには標本情報との横断利用を進めていくために求められている事項について議論する。